



天明二年、宗七月廿二日、奥州會津縣松山、松山二年と  
 云稱、即ちる、怪談の圖

云々、七年夏の以り、奥州會津、  
 松山縣以下の男女、子依、  
 りも、かく、舎、  
 の、  
 湯、  
 者、

一 南部を藤原氏孫の代々岩波庄流及口足地所  
はる氏八及中人百人ら流絶て右曲の討せん  
當家の正月一山とかいふりわらふ矢玉花之り  
いふ小入しを絶る小先年柳之事して海合  
足柳松若之平と云者之拾目おまろけ計と云る  
あり傷々夫八及下知小値いんりて七月亦百人  
箇中く子留いかり子依取ふさし親を此返ひ  
いしん方おく敵嫌りう感状いしし馬道り  
取之と傳付し一滅小近代の採事別其怪然の當  
たのま

脊のさ四人八寸 頸よりこぼる人口耳共七寸  
鼻の着のこく長くして地有金新花と云る  
のこく一尾の長さを大七人皆思く尾の又  
とひく一全新汁と云り一松成毛惣  
小切り水うき有文内奥と事一たさ  
ん所お眼く一海一必ず宛死し  
ふはり

身内臭はさう多しん  
 所たり〜眼〜  
 即ち死〜  
 うまのん



十月十六日記寫

一西島西領年鴻村百姓結落後  
 當有老日野邊、藤村、肌不持  
 之田の畷、小古首、蝦有之  
 汝回道、沙、以、涼、見、有、為、知、  
 有、有、押、是、南、月、十、有、衣、也、  
 持、系、辨、出、山、間、見、所、以、肌、衣、  
 通、之、也、遠、凡、長、中、後、有、之、

